

# 月刊 やちまなこ

2012.8.15 発行

No. 177

## 8 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



エゾハルゼミの鳴き声からコエゾゼミの鳴く季節を迎えたが、今年はその鳴き声も記憶にとどまるには程遠い感じがする。

まるでジェットコースターのような気温の変動により夏風邪をひく人も少なくないようだ。熱射病という言葉もいつの間にか熱中症と言われ、環境の変化とともに使う言葉も変わる時代となった。



# コッタロ川と湿原のほとりから

## 146 8月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

新涼の候となりました。

本格的な夏は終に訪れず、季節は足早に移り過ぎようとしております。

8月1日に18度目の移住記念日を迎える迄の東の間の一週間が日中のみの淡い夏日であったのかもしれませんが、それもそのはず、度重なる低温注意報と、気圧の谷の通過による雨続きの毎日で肌寒く布団と毛布は一晩たりとも手離せず仕舞いです。

ところが大地はたっぷりと恵みの水をのみ勢い良く緑を繁茂させ、秋草の開花リレーが滞りなく続

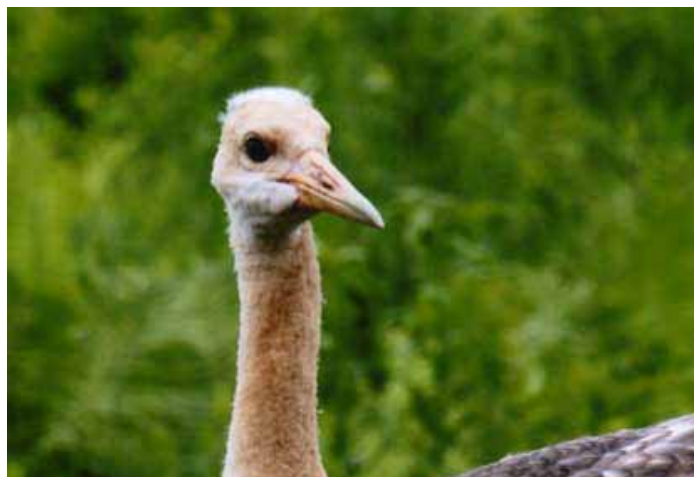


けられております。土着のイタドリなどの群落から発せられるムツとする花イキレには思わず息も止まりそうになったり、ショッキングピンクが目にあざやかな虫捕りナデシコの中に、見馴れぬ白い花の株があったりして、珍しさにパチリ。秋桜でさえ今や花盛りでもうすぐコオニユリも咲くでしょう。

一方、水深が浅くなったコッタロ川をのぞき見れば、澄み切った川床を這う巨大ザリガニがミンクに捕食されて橋の上に落とされた糞の量の多いこと！又今季大発生したカエルが残した子孫達も繁栄を極めており、足の踏み場もありません。

さて、このエリアにすみついている丹頂の第1、第2、第3コツ&タロに各々1羽、2羽、1羽と4羽の幼鳥が育っていて、孵化後80日目を迎えており、飛べるようになる100日目が待たれますが、頭頂部（将来赤くなる部分）に生えた産毛の白いポヤポヤが抜け落ちる寸前の56日目を二方向から撮った写真を御覧下さい。カメラを意識している様子がみてとれるでしょう。

ところで今季初めて我家の換気扇で二回子育てに成功した家雀♂♀は、もう一回試みようとしているようですが果たして三度目やいかに！？ほんのちょっぴりでも戻り夏に期待することにいたします。





山地のやや湿った草原や林縁に生えるカワミドリが、湿原を見下ろすサルルン展望台付近の散策路に咲いていました。近付いて花を見ると四角形の茎と独特の香気が「私はシソ科の花です」と主張しているようでした。

茎の先に紅紫～青紫色の小花がたくさん集まって咲くこの花が見ごろをむかえると、湿原にいよいよ秋の気配が漂います。

漢方では全草を乾燥させたものを「藿香(かっこう)」といい、食欲不振や頭痛に効果があるそうです。



土器・土偶を野焼きして完成。



先月14日に開催した「縄文土器と土偶を作ろう」参加者の作品を自然乾燥させたあと、今月12日に野焼きを行いました。燃え上がる炎とともに当日は気温も上がり、下手をすると脱水症状を起こしかねない状況の中で、作業を進めました。

焼き上がった作品は、微妙な炎の温度変化や空気の影響などにより様々な風合いとなり、中には粘土に空気が入っていたのか膨張して破裂したものもありましたが、夏休みの作品として各自持ち帰りました。

ネムネムのとうろうろう日記 Vol.38「虫の調査はしつこい？」

郷土館では私1人で花、鳥、虫・・・と様々な分野を扱っています。専門外も多いので、調査などはその道のプロと一緒に実施することも多いです。植物を専攻した身としては、虫のプロの動きというのは、驚くほどしつこい・・・いえ、かなり根気強いです。

植物の場合、基本的に動かないので、目的とする植物がなければ、次の調査地にいきます。空を飛べる鳥の場合でも、姿や鳴き声を確認できなければ「今日はいない。」で次の調査地にいきます。しかし虫の調査は違います。

朝、調査地に行ってきたはずなのに、しばらくすると「日が差してきたから」とまた行く。お昼近くになると「気温が上がってきたから」、夕方「気温が下がってきたから」様々な理由で、日に何度も通います。そして調査が終わってからも、帰りにまた立ち寄っていた、なんてことも。確かに虫は気温の変化に敏感ですが、あまりの根気強さに「これは彼女(奥さん)つれていたら、しびれ切らせて怒るだろうな・・・。」と余計な心配をしてしまうほど。

しかしそんな私も、今年の夏はカラフトルリシジミを探して2時間同じ場所に留まり、アカメイトトンボを探して9日間塘路湖に通ったりします。

辻 ねむ (標茶町郷土館学芸員)

7がつ 27にち

ばしょ とうろ



絶滅危惧種アカメイトトンボの撮影に成功しました。調査開始5年目にして、悲願達成！！

# 9月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

## ピンホール写真講座

[日時] 9/1 (土) 10:00～15:00

[定員・参加料] 8名、500円

[場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

[持ち物] 時計、30センチ定規、エプロン、手拭きタオル、昼食

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ 問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで Tel 015-487-3003

## 初秋の湿原花ハイク

[日時] 9/9 (日) 10:00～12:00

申し込み 問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

## 塘路湖・シラルト湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(7/16)ミズチドリ、エゾノヨロイグサ、ヒルガオ (7/18)ヤナギラン、ハシドイ (7/22)ホザキナナカマド (7/23)ネムロコウホネ、ヒシ (7/25)クルマユリ、オオウバユリ (7/28)ヒツジグサ (7/29)エゾノキツネアザミ、キンミズヒキ (8/1)オオハンゴンソウ (8/3)オニノヤガラ、クサレダマ、キジカクシ、ウマノミツバ、ヤブジラミ、エゾミソハギ、ミヤマヤブタバコ、ナガボノシロワレモコウ、エゾヤマハギ、ハンゴンソウ、ノリウツギ、ミヤマタニタデ、カワミドリ、トモエソウ、クルマバナ、ハエドクソウ、イヌエンジュ、ヤマグワの実 (8/4)ツリガネニンジン (8/10)ヒヨドリバナ、ネジバナ (8/11)ハッカ、エゾイヌゴマ

【鳥】(7/16)ノビタキ、コヨシキリ (7/20)オジロワシ (7/22)シジュウカラの親子 (7/31)カワセミ (8/3)アマツバメ、アオバトの声 (8/3)ウグイス、アオジ、センダイムシクイ、ヒガラ、エゾセンニュウ (8/9)アオサギ (8/11)アカゲラ

【その他】(7/18)塘路湖で水草を食べるエゾシカ (7/20)キタキツネ (7/24)クロイトトンボ (7/25)ヘイケボタル (7/28)コオニヤンマ (7/31)コエゾゼミの声 (8/3)キアゲハ、ミヤマクワガタ、オオミズアオ (8/4)ミドリヒョウモン (8/10)エゾタヌキ (8/11)エゾリス (8/12)シオカラトンボ、モンシロチョウ、キタキツネの死骸 (8/14)エルタテハ、クジャクチョウ

## ■釧路湿原写真展のご案内

8月20日から30日まで、釧路湿原国立公園指定25周年記念「釧路湿原の写真」入選作品巡回展を開催します。釧路湿原の魅力を伝える写真をぜひご覧ください。入場無料。

◆日出・日入時間 8/15(4:28, 18:25)・8/31(4:46, 17:59)・9/14(5:01, 17:34)



夏毛のエゾリス (塘路湖 8/11)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:[emc@hokkai.or.jp](mailto:emc@hokkai.or.jp)

開館時間 10:00～17:00 (11月～3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料